

～「ながら防犯」を生活の一部に～

総務省地域力創造アドバイザー／福岡県安全・安心まちづくりアドバイザー／福岡県地域づくりコーディネーター／  
NPO 法人地域交流センター九州事務局長／(株)まちづくり計画研究所 代表取締役 今泉 重敏

## 1. 防犯活動の実態と「ながら防犯」とは

●見守り隊等の防犯団体への加入について⇒地元の住民に「防犯団体に入って下さい」と言っても、ほとんどの大人は働いたり、学んだり、「朝夕の時間帯は通勤・通学で、とても見守り活動なんてできない」のが現実。このほか様々な理由から家から出れない人や毎日ウォーキングなどの日課があり、防犯団体に入れない人も。

●その結果⇒防犯団体は高齢者が中心。その高齢者が何年も続け、足腰が弱ったり、病気になったりし、このままでは新しく加入する人は少なく、メンバーは固定化・減少へ。見守り隊の負担は増え、団体活動は低下し、地域の防犯力も低下。このままでは犯罪増加につながる可能性も。一方、活動団体の課題をメンバーや住民の知恵と工夫で克服しながら、活動を続けているモデル的な団体も存在。

●ではどうしたら良いのだろうか？⇒地域の安全・安心は、そこに住む人や働く人みんなで取り組むもの（居住者だけでなく、企業・商店等も企業市民の一人としてまちづくりに参加すべき）。防犯団体・組織活動は重要だが、これからは団体・組織に頼らない活動も重要だ！つまりそこに住む人や企業市民一人ひとりが、日常生活の中に防犯意識を持ち、特定の人だけに防犯活動をやってもらうのではなく「できるときに、できる防犯活動を実践する」ことが求められている。『自分達が住む・働くまちの安全・安心は自分達で創る』という視点が重要→個人としての安全・安心まちづくりへの参加促進

また、防犯団体ではない多くの団体・組織が、日々の活動の中に「防犯」の視点を取り入れ活動し、防犯団体等と緩やかにつながることも重要。→防犯団体以外の様々な団体・組織の安全・安心まちづくりへの参加促進

●個人や既存の防犯団体以外の団体・組織による安全・安心まちづくりへの参加を促進するために「ながら防犯」が誕生！・・・ながら防犯：2016年に今泉が県へ提案

●「ながら防犯」とは？⇒

「仕事」「通勤・通学」「買い物」「ウォーキング」「ジョキング」「犬の散歩」「花の水やり」「挨拶」などの、日常の生活行動の中に、防犯の視点を取り入れて行動しながら、地域の「異変」「異常」「危険箇所」に気づき、それを防犯や交通安全等の活動に関わる人に伝えることで、犯罪を未然に防ぐ一連の行動を『ながら防犯』と呼びます。

【i】地域の「異変」「異常」「危険箇所」とは？

このまま放置すると、犯罪や事故につながる可能性がある状態を指します。

例)「不審者(車)を見かけた」「徘徊する人を見かけた」「住宅の窓が壊れていた」「通りの防犯灯が消えていた」「落書きを見つけた」「大量のゴミが放置してあった」「ポストにチラシ等が溜まっていた」など。

## 【ii】防犯や交通安全等の活動に関わる人とは？

例)「通学路で子ども達を見守る“見守り隊”の人」「青パトに乗った人」「横断歩道で交通誘導している人」「オフィスやマンション等の警備員」「警察官」など。

\*見守り隊や交通誘導者等に対しては、日頃から通勤・通学中にあいさつするなど、顔見知りになっていれば、地域の「異変」等を気軽に伝えやすくなります。

## 2. 地域住民、学生、企業は「ながら防犯」で何に取り組んだら良いか！

### 1) 地域に住む・学ぶ・働く市民の一人として取り組む（共通）

○「通勤」「通学」「買い物」「ウォーキング」「ジョキング」「犬の散歩」「花の水やり」「挨拶」などの、日常生活行動の中に、防犯の視点を入れ、地域の異変等に気づき、それを防犯や交通安全等の活動に関わる人に伝える。

○「防犯パトロール中」「安全パトロール中」「ながら防犯（実施中）」などのステッカーを車、自転車、持ち物等に付けたり、バッチを服・帽子等に付けてながら防犯に取り組む。

○犯罪が起こりやすい環境を自らつくらない。（夜道では隙を見せない／「歩きスマホ」などの「ながらスマホ」をやらないなど）

**◎地域であなたの代わりに防犯活動を行っている、見守り隊や青パト運転者（バッチ等付けている人を含む）等に対し、挨拶・声掛け・会釈などを行い、防犯活動関係者のモチベーションアップに貢献する。これであなたも間接的に防犯活動に取り組むことに！**

ここでの◎の取組みは、お互い顔なじみになることから、地域コミュニティの強化につながり、防災・福祉等のまちづくり分野で大きな役割を果たすものと期待される。

### 2) 地域住民が取り組む「ながら防犯」

○地域をあげての8・3運動の展開（子どもが登下校する8時・3時前後の時間帯に、外の用事を行ったり、通学路に目を向ける）。

○地域でバランスを考えながら「こども110ばんの家」を設置。

○子ども110ばんの家への駆け込み訓練、子ども110ばんの家と子どもとのふれあい交流。

○“一戸一美”運動の展開で通りに目を向けた美しい町並づくりの展開。

○一戸一灯運動で家の前の通りを明るくし、下校中の子ども達などを守る。

○家・オフィス・店内の窓などから登下校中の子ども等を見守る。⇒窓等から見守っていることを看板やポスターなどでわかるようにする。

○マンション等での取組み⇒「このマンションでは24時間住民が窓から外を見ています」などの看板等の設置。

○地域安全マップ・地域安全安心マップづくり

○あいさつスポットづくり

### 3) 学生（大学）が取り組む「ながら防犯」

○青チャリの社会実験

○ながら防犯の調査研究

○学生によるながら防犯ワークショップ⇒アイデアを地域で実践

○大学による「ながら防犯」宣言

#### 4) 企業活動の中で取り組む（企業市民）

- 「ながら防犯」について社内啓発。
- 営業中や仕事で移動中に、地域の異変、異常、危険箇所に気づき、状況に応じ、警察・見守り隊・交通誘導者・警備員等にその内容を伝える。
- 「防犯パトロール中」「安全パトロール中」「ながら防犯（実施中）」などのステッカーを車に付けたり、バッチを服・帽子等に付ける。
- 一社一灯運動で会社の前の通りを明るくする。
- 「こども110ばんの家」に登録する。
- 会社前で登下校中の子ども達の見守りを行う。
- 企業による8・3運動の展開（子どもが登下校する8時・3時前後の時間帯に、外の用事を行ったり、通学路に目を向ける）。
- 訪問活動中の見守りや防犯啓発を行う。
- 社員で構成される様々な団体・組織に対し、日々の活動の中に「防犯」の視点を取り入れ活動することを依頼する。
- 仮称「ながら防犯通報所」に登録する。⇒この制度はまだありません。アイデア段階
- 周辺企業・商店・住宅と連携した「一社一美運動／一戸一美運動」「通りの文化祭」等の展開 など

#### 5) 地域住民と学生（大学）が協働で取り組む

- 学生による青パト体験／学生参加による地域パトロール／学生参加によるゴミ拾い（鯖江市JK課の取組み：注目を集めるため、ぬいぐるみを着てゴミ拾い実施）
- 地域安全マップ・地域安全安心マップづくり・安全安心通学路づくりなど
- 「ながら防犯」について協働で啓発。・・・一緒になってチラシ等配付、SNS等による発信。
- 騒音測定器を使った大声だし訓練の実施（子ども達が飽きないように、遊び感覚で楽しく工夫しながら実施）
- 上記の地域が取り組む「ながら防犯」について、学生との協働が可能なもの。

### 3. 「ながら防犯」推進上の課題

- 地域の異変等を伝える人や場所を増やすこと・・・伝えやすい場所：コンビニやスーパー
- 異変等を聞いた見守り隊等が、その内容を理解しリーダー等を通じて、自治会・役所・警察に確実に伝わる仕組みづくりが重要。
- 県や警察をあげての福岡発「ながら防犯」のPR ほか。

### 4. 参 考

- ・子ども110番の家の位置を子ども達に覚えてもらう  
**子ども110番の家サインタッチ**（曜日を決めて）
- ・子どもが高齢者を見守る逆発想  
高齢者が子供を、子どもが高齢者をそれぞれ見守る。  
曜日を決め、**窓やベランダから手を振る高齢者**
- ・通学路を美しいアート空間に！  
一店一美運動／一戸一美運動／一所一美運動  
個人の趣味や特技を活かし、通りを美しく
- ・**83運動**：小学生の登下校時間である8時と3時には、なるべく外の用事を行いながら、子どもを見守ろう。



- 落書きやごみの不法投棄を減らそう！
- あいさつ&見守り花壇の設置
- 子どもの通学風景写真展開催（写真クラブとの連携）
- 子ども110番の家駆け込み訓練の実施  
地域の実情にあわせて警察・学校等の協力を得て実施
- 子どもと沿線住民一緒に花を植え沿線に設置  
登下校時に子どもが水を花にかけ家の人との交流図る。  
祭日には住民が水をかける。
- かかしが子どもを守る？！  
家や人通りが少ないところでは見守りかかしを設置
- 通学路で地域デビュー  
あいさつスポット／あいさつ通り



• 視点を変えて安全・安心まちづくりに取り組もう！

趣味や特技を活かしたまちづくりを展開しよう！これからのまちづくりは、市民一人ひとりが生涯学習で習ったことを、自分たちの地域がさらに住みよくなるように活かしていく視点が重要！生け花、俳句、習字、絵画、押し花、楽器演奏、庭づくりなど、趣味や特技をまちづくりに活かす→さらなる喜び（生きがい）→協働によるまちづくり→住み良い安全安心な地域の誕生・・・「“一戸一美”運動」「通りの文化祭（通りから見える家の前でできることをやってみる）」



一戸一美運動（通りの文化祭：北九州市八幡西区楠北自治区会）



通学路で子どもを守るかかし（不審者対策＝久山町ほか）



ゴミの不法投棄防止（朝倉市・飯塚市）

(第3種郵便物認可)

# 西日本新聞

1978~80年懐かしの写真集  
旧国鉄筑肥線  
~そこに駅があった  
●山原部 書店へご注文ください

2015年

4月19日  
(日曜日)

## 筑豊

筑豊総局

0948(22)3500  
FAX 0948(22)3503  
〒820-0004  
飯塚市新立岩12-9

### かわすじ 今日談

筑豊総局長

西村 隆幸

お笑い芸人じゃないかと思いたくなるほど、話術にたけた人だった。

今泉重敏さん。地域活性化やまちづくりの計画策定に取り組む「株式会社まちづくり計画研究所」(福岡市博多区)の代表取締役だ。九州各地の自治体にアドバイスを送り、数多くの講演をこなしている。

直方の知人に招かれ、一献傾けた。アイデアに富んだ今泉さんの活動を紹介したい。

「珍樹発見・活用倶楽部」を立ち上げた1人だ。人の顔や動物に見えるような樹木を探し、地域のお宝として人集めに生かそうとしている。

古賀市青柳の五所八幡宮にある「ムーミンの木」が代表例だ。高さ40センチ、幹回り10センチのクスノキのこぶが、アニメでおなじみ

のムーミンが幹に抱きついてい

るように見える。10年ほど前に発見された。地域の人たちはほかの巨木にも名前をつけて、あおやぎ珍樹の森として売り出しているという。筑豊でも珍樹は見つかって

## アイデア満載の仕掛け人

る。飯塚市庄内元吉の天降神社

には肩間にしわを寄せた「弁慶の木」や「しかめっ面のアンパンマン」「奇木二十面相」がある。飯塚市多田の日若神社ではクスノキが支え合うように接し、「友情の木」と呼ばれている。

笑顔のまちづくりを提唱して

いる。知人の漫画家に頼んで、笑顔の似顔絵を作成。店や商店街に掲げて、「笑売人」や「笑店街」として元気つけようという考えだ。

全国に広がった「まちの駅」の立ち上げを早くから呼びかけている。空き店舗などを活用し、その町の情報を来訪者に提供したり、住民の交流の場にしたたり、防犯に役立てたりと利用方法は

さまざまだ。

今泉さんの働きかけで150以上の駅が九州各地に開設されたといい。人と人の出会いを促す「ヒューマンステーション」という発想が今泉さんの思いと重なるという。

今泉さんは「人の顔が異なるように、地域の顔もさまざまです。その地域らしさを生かして、

何事もプラスにとらえて関係者の意識を高めていくのがポイントです」と語る。

地域には「2・6・2の法則」があるという。前向きな2割、足を引っ張る2割、黙って様子見の6割。「前向きな2割と一緒になって、実現可能なアイデアを達成し自信をつけながら前に入るのが大切だ」とアドバ

× ×

今泉さんは会議に臨むとき、名刺サイズのカードを所持している。片面がイエロー、裏側の半分はグリーン、残り半分はレッドだ。

グリーンは、素晴らしい意見、やる気を高めるアイデアを述べた人に示して、称賛する。イエローは、3分以上話す人、

後ろ向きな意見ばかりを述べる人、しかめっ面で雰囲気壊す人に提示。イエローカードを出しても言うことを聞かない人はレッドカードで退場を願うそうだ。

カードそのものが話のたねになる。カードをもらった人はさすがに会議の空気を読むようになるだろう。前向きに地域を引っ張ろうとする姿勢は大いに参考になる。

統一地方選挙の第2ラウンド

がきょう、市長選・市議選の告示とともに始まる。21日には町長選・町議選も告示される。候補を選ぶポイントを尋ねると、今泉さんは「自ら進んで汗をかきそうな候補を選んでほしいけど、公約から見分けるのは難しい。笑顔がすてきな人はどうでしょう。笑顔はごまかせません。作り笑いはすぐに分かります」。

私たちの古里をしっかりと考え、語る1週間にしたい。

《今泉重敏プロフィール》

【主な活動等】まちづくりに関する調査・研究、市町村の総合計画、観光まちづくりの振興、農業振興計画、ひとづくりによる地域おこし等を専門的に行う。特に地域の特性を踏まえた、すぐにでも実践可能な、ユニークな、楽しい特色ある計画づくりを提案するが得意。「笑顔あふれる笑店街づくり」「通って楽しい通楽路づくり」「農家が元気になる松尾百笑村（農林水産大臣賞受賞）」「不法投棄防止のおまじない」「まちづくりの2・6・2の法則」「会議で使用するイエローカード、レッドカード等のまちづくり支援グッズづくり」「まちの駅づくり」「人面木の掘り起こし」「犬のフン取隊活動」「全町美術館構想」などのユニークな事業、実践を行う。行政と連携しながら小学校区等单位のまちづくりの仕掛け人としても活躍中。30歳まで町役場（久山町）を経験した、約1万人の人的ネットワークを持つまちづくりコーディネーター。これまで行政等から委託を受けた事業や報告書は、150以上にも上る。